せりたより ⑧

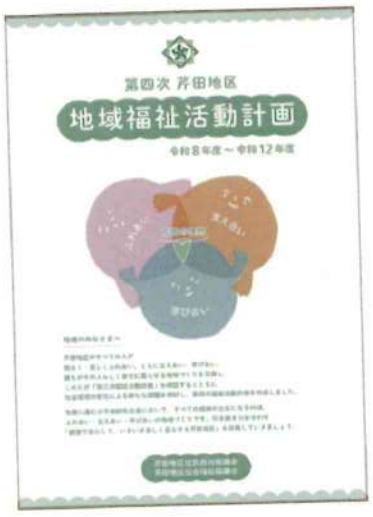
発行
芹田地区
住民自治協議会

芹田は17区（芹木・若里西町・若里中央・南市・北市・北中・七瀬・七瀬南部・七瀬中町・栗田・南俣・上千田・中千田・日詰・母袋・川合新田・川合新田団地）から成る地区です

おしえて 芹田独自の地域福祉活動計画とは？

芹田に暮らす私たちみんなが体も心も健康で、安心して、いきいき暮らせる地域を目指す

4月に全世帯に配布された「第四次芹田地区地域福祉活動計画」はご覧になりましたか？どんな活動計画で、どんな人が関わっているのか、今号で深掘りしてみました。



そもそも 地域福祉 -ちいきふくし- とは？

「福祉」は、「福（しあわせ）」と「祉（さいわい・めぐみ）」で、「幸福」や「健やかな暮らし」を意味する言葉。すべての人が安心して幸せに暮らせる"状態"や、それを社会全体で支え合う"仕組み"を意味するそうです。では その頭に「地域」が付くと、どんな意味になるのでしょうか？

	地域福祉	市福祉（行政の福祉）
主体	私たち地域住民 各種団体	行政や福祉事務所など
目的	住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、孤立を防ぎ「顔の見える関係」をつくること	法律や税金を財源に、最低限の生活や必要な専門サービスを平等に保障すること
内容	見守り、支え合い、ふれあい活動や声かけ、地域課題共有のためのネットワークづくり （自助・互助）	生活保護、介護保険の認定、障害福祉サービスの支給、児童手当などの公的制度 （公助）

かなりざっくり言うと、「地域福祉」は『大きなご近所さん付き合い』

芹田独自の 地域福祉 活動計画
（大きなご近所さん付き合い）

この活動計画をもとに活動しているのが…

芹田地区住民自治協議会の「福祉健康部会（芹田地区社会福祉協議会）」

【構成団体】福祉推進委員会、民生児童委員協議会
保護司会、赤十字奉仕団、更生保護女性会

① ふれあい・交流の場
～「居場所づくり」「きっかけ」～

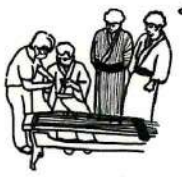
- 子育て・子育ち支援
- 各地域の子育てサロン
- お茶のみサロン
- ふれあい会食







- 世代間交流
- 多文化交流



- 健康増進＆交流促進
「せりた健康ウォーク」「ボッチャ大会」
各区とともに「はつらつ体操」





- いきいき高齢者交流（住民地域デビュー）
「レコードdeサロン」ほか

② 見守り・支え合い活動力

地域たすけあい事業

芹田地区内の協力会員（有償ボランティア）によって活動。利用には条件や会員登録が必要

◎福祉移送
（福祉自動車での送迎）
◎家事支援

③ ネットワーク作り
④ 地域課題の共有

芹田ネットワークミーティング
（月1回開催）

メンバー
- 芹田支所
- 西部保健センター
- 長野市地域包括支援センター芹田
- 芹田地区社会福祉協議会

※個別課題を共有して地域課題へ

これらそれぞれがつながり合い、
ひとつの輪で活動していくことを大切にしている

「情報発信」を通じて「相談しやすい（孤立を防ぐ）環境づくり」や、福祉や健康への理解を深める運動・大会などの活動も。

話してくれた人



（北市在住）
髙松あけみさん
芹田地区住民自治協議会「福祉健康部会」部会長
芹田地区社会福祉協議会 会長

4月に着任してから、勉強と広報を兼ねて長野市地域包括支援センター芹田の小林所長と「地域福祉活動計画」のパンフを持って各地域の「はつらつ体操」を回ってます

「社会福祉協議会」通称「社協」とは？

「市の社協」と「地区社協」があって、芹田の社協は「地区社協」です。芹田地区住民自治協議会の「福祉健康部会」に紐付く組織で、5つの構成団体から成っています。

「すべての住民が健康で（体も心も）安心して、いきいき楽しく暮らせる地域」を目指す組織で、その指針になるのが「地域福祉活動計画」なんですよ。この活動計画と構成団体が、それぞれのことでつながって、輪になっているようなイメージですね。

髙松さんの経歴

結婚して若里に住んでから、ずっと医療事務の仕事をしていたんです。でも49才位の時に「ひとつくらいは何かに夢中になりたい！」って勉強して、社会福祉士とケアマネの資格を取って。すると人間って欲が出るじゃない？（笑）それでケアマネの居宅介護支援事務所に何の経験もなく入って、社会福祉士の方は講師もやったりしました。

会長になった経緯

「何の経験もなく」っていうのは社協の会長になったのも同じね（笑）

退職後に地域の公民館役員をやって、次に老人クラブの会長になって。今年の春頃かな…家の玄関で草取りをしていたら、芹田住民自治協議会・会長の倉石さんが自転車で来て「ねえねえ、住民自治協議会の役員をやってもらえない？」って（笑）



いきなりそんな声をかけられて「私なんて社協の知識もないし、住民自治協議会がどんな組織かも分かってないのにできるわけないですよ～」って言ったんだけど「大丈夫大丈夫」って（笑）「身近なやわらかい感覚でやってもらいたいんだよ。『組織』とか『こうでなければ』じゃなくて、隣近所の感覚でさ」って。そんな風に言ってもらったから、本当に未経験で何も知らないんだけど、ひとつひとつ、みんなに教えてもらいながらチームで…と思って。

【裏面につづく】

感想やおすすめ情報うれしいです！ 芹田地区住民自治協議会 ☎264-5880（平日9時～16時） ✉serita-jujikyo@vanilla.ocn.ne.jp

会長になってみてどうですか？

楽しい（笑）なんて言うのかな、例えば何かイベントがあったりして、みんなであまでもないこうでもないって考えたことを、参加してくれた人と「おもしろかった」「楽しかった」と、一緒に楽しめてる自分がいるのがすごく新鮮だし、うれしい。「してあげている」っていうんじゃなくてね。



ケアマネの仕事はどちらかというと実務で、困っている人や物事に「こうなんだから、こういう風にすれば解決する」って仕事で、それもすごく大事なのだけど、利用者さんの気持ちに寄り添うバランスにも時々悩むこともあったんです。

大切にしたいこと

私たちの役目って大きな意味での「きっかけづくり」なのかなって思うんです。行政のように何かを提供したり支援したりではなく、普段の生活の中で気づけることや、相談しやすい「環境」だったり「居場所」を作ることなのかなって。

芹田は一人暮らしの高齢者も多いけれど、一人で楽しく暮らしている方もたくさんいらして、それ自体が問題なわけではないじゃない。だから「こうしましょう」「ああしましょう」と、無理矢理入り込んでお膳立てするのではなく、「楽しかったな」「よかったな」と、ちょっと思えるような「居場所」だったり「きっかけ」につながる場が色々あることが、「安心」にもつながるし、「孤立」を防ぐのかなって。

おまけコーナー

高松さんの趣味







これからについて

私としては、今も色々な活動をしていますが、より各区をこえて、楽しみや生きがい、活力につながるような住民参加の場が育っていけばと思っています。

例えば、地域の中で「ちょっと得意なこと」をお持ちの方ってたくさんいると思うんですよね。講師とか先生とか大げさなことじゃなくて、ちょっと園芸に詳しいとか、昔やってた仕事のちょっとした得意分野とか。そういったことを（自分では手を挙げづらいから）まわりの推薦で教えてもらって、地域のお茶のみサロンなんかに来てもらってみんなでやってみるとか…ね。男の人は特にそういう集まりには普段、参加しづらいけれど、頼まれて出ていくなら悪い気はしないと思うの。そうやって「ちょっとしたお得意人材募集」みたいなことを、すぐには集まらなくても、いつでも窓口があって、ちょっとずつ集まっていった先に「小さなつながり」が区をこえてできていったらいいんじゃないかなぁなんて思ってるんです。



福祉推進委員会、民生児童委員協議会、保護司会
赤十字奉仕団 更生保護女性会

芹田地区『社会福祉協議会』のメンバー





顧問

前会長 竹村さんとのお茶のみ話

福祉移送車「芹田ふれあい号」の現役ドライバーでもある

何も知らないで会長になって、みんなに迷惑をかけながらやりましたね（笑）

「地域福祉とは何か？」から入って、「ふれあいの場をどれだけ作ることができるか」なのかなと。活動を通じて自分自身も楽しむことを大切にしました。

「健康寿命の増進」は、やり残したことかなぁ（笑）公園とかに自由に使える健康器具を設置して、東屋とかもあったりすれば、来た人たちで自然にお茶のみ話もできるじゃない？芹田には北中にあるけど、そういう場所が増えてあちこち歩いて巡るのも楽しいと思うんですよね。

事務局（芹田住民自治協議会の事務局と同じ事務所内にあります）

地域福祉ワーカー

せりた健康ウォークなどの企画運営をしている



北村さん

◎上田（妻の実家）へ米づくりに通い中

◎趣味：バイク
年1～2回軽井沢へミーティング。それ以外は磨いて楽しんでいる

昨年4月から勤めています。前職が鉄道関係という固い仕事だったので、180度違ってまだまだ模索中ですけど、少しづつやりがいも感じています。やっぱりアンケートなどで「楽しい」「来てよかった」などの反応をいただけると、うれしいですよね。

たすけあい事業コーディネーター

「地域たすけあい事業」の福祉移送や家事援助をコーディネートする



矢口さん

◎前職は市民活動支援のNPO法人職員

◎趣味がないから外出したり人と話しているのは仕事のおかげ！

コーディネーター8年目です。お一人お一人への対応なので、単純作業はなく大変な部分もありますが、事務局の人たちや会員の皆さんのやさしさにも支えてもらってきました。家事支援などがうまくマッチした時や、「福祉自動車があってよかった」などの声が仕事の励みになるし喜びです。

編集室より

高松さんのお話を伺って、「せりたより」のスタート時の倉石会長の言葉を思い出しました。「芹田に暮らす一人として、ご近所情報を届けてくれればいいんだよー」と、その時もおっしゃっていました。

この紙面でも「近所の○○屋さんがおいしいです」とか「○○公園の○○が毎年とてもきれいに咲きます」とか「○○クラブでは部員募集中」とか、そんな話題を気軽に投稿してもらって、紙面上で芹田の情報交換ができたらいいなぁなどと、いつも妄想だけはしています。

この紙面の制作は発行2ヶ月前に始まるので旬な情報を載せるにはタイミングがむずかしいかもですが、よかったらお気軽に日々の気づきや楽しみなどなどお寄せください。